

# 「ぶんせき」の思い出



大 西 寛

ご存知のとおり、「ぶんせき」2016年の表紙には、1975年のはじめから2016年までの42の表紙がきれいに並んでいます。通巻500号おめでとうございます。

「ぶんせき」1994年第12号（通巻240号）が「ぶんせき」20周年記念になっています。その号に1975年から1994年までの13の表紙が並んでいます。また、初代委員長を含め7人の委員長のお原稿が掲載されました。今回500号記念のとびらに拙文を書く機会を与えられ光栄に存じます。

私は1981年4月から1984年3月まで「ぶんせき」の編集委員長（3代目）を仰せつかりました。その間、副委員長（太幡利一氏）、編集理事（佐藤公隆、原口紘丞、保母敏行、大河内春乃の方々）、編集委員の皆様のおかげで務めることができました。委員長は人使いが荒いというおこごとも頂きました。

事務局の方々のご協力にも深く感謝します。とくに編集委員会の議事録作成はご苦労だったと思います。編集課の久米崇史さんの早世（1995年7月）は誠に残念でした。次の鈴木繁喬委員長の時「ぶんせき」総索引・総目次1975～1984年が完成したのはありがたいことです。久米さんはその作成にも努力されました。

荒木峻初代委員長から「ぶんせき」で取り上げる題目（項目）は5年経ったらまた取り上げてよい、とのご意見を頂いたことがあります。その分野の進歩に留意せよというお考えからだったと思います。

「ぶんせき」1983年第4号のとびらに、坂口武一教授の「医薬品分析化学の未来像と夢」が掲載されました。お原稿を拝見して、その中のシス白金というのは化合物命名法からみていかなるもののでしょうか、と質問しました。それに対して先生から参考文献を下さり、医学・薬学ではシス白金が広く使われていることを知りました。その結果、シス白金はそのまま印刷されました。先生の熱心なご教示を今でも覚えています。[なお“岩波理化学辞典”，第5版（1998）「白金錯体」ではシスプラチンともいい、制がん剤とあります。]

最後に財政問題にふれたいと思います。この国だけでなく外国の学会も財政難のようです。私にもアメリカ化学会から毎年寄付をどうぞの手紙がきます。「ぶんせき」の発行にもこの問題があると思います。その解決は難しいでしょうが、問題の検討とPRは必要でしょう。これからも「ぶんせき」が会員（読者）にとって役に立つことを願っています。

[Hiroshi ONISHI, 筑波大学名誉教授, 元「ぶんせき」編集委員長]